

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190200085		
法人名	NPO法人だいこんの花		
事業所名	NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地1		
自己評価作成日	平成25年12月9日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=detail_2013_021_kani=true&amp;j_gyosyoCd=2190200085-00&amp;PrfCd=21&amp;Versi.onCd=021">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=detail_2013_021_kani=true&amp;j_gyosyoCd=2190200085-00&amp;PrfCd=21&amp;Versi.onCd=021</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年1月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然のなかで地域の人に助けられ地場で採れた米や野菜を沢山とり入れた料理を食べていただくよう皆で工夫しています。又家庭的な雰囲気を大切に、その人らしさを大切にして健康的で明るく過ごしていただきますよう

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域の利用者が多く、野菜の頂き物があったり、事業所の畑の管理をしてもらったり、地域とのつながりが深い。同一敷地内に系列の事業所やNPO法人が運営する交流センターがあり、お互いに協力し合い良い関係を築いている。小規模事業所の特性を活かし、長期の宿泊や通所の送迎時間は利用者や家族の希望に合わせ、朝食や夕食を提供し柔軟な対応をしている。事業所のできる範囲の内容で家族に代わって観光地にドライブに出かけたり、外食や花火見物にも外出している。利用者のペースを守り、家族とも良い関係が維持できるように、送迎時は関りの時間を大切にしている。全職員が協力し合いながら、経験が浅い職員も良いケアが提供できるように、それぞれ役割を持って係を分担制にしている。実践状況から自分で気づきや学びを大切にして質の向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に小規模多機能に、ふさわしい態度で実践につなげる努力をしている	毎日の申し送りにて、その日の介護における目標を職員で確認し、実践している。しかし、法人としての運営理念はあるが、小規模事業所としての理念ができていない。	全職員で話し合い事業所としての理念を作り、理念に基づいた介護が提供できるようにされたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事には民生委員さん、交流センターに通う地域の方々に参加してもらう、また情報を得て、事業所や利用者の方が参加出来る運動会見学、文化祭の参加を行っている	住民と気軽に声かけができ、野菜等の頂き物がある。交流センターが地域住民との触れ合いの場所になっており、カラオケや生け花教室でも交流がある。小学生の福祉授業や中学生の職場体験にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	関市のキャラバンメイトの指導者として地域の理解を深める活動をしている、小中学校の福祉に関する授業には協力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の結果は、運営推進会議で口頭で報告し、利用者の声、家族の声を聞き真摯に受け止め改善できるように職員のミーティング等で周知して次回につなげる様に努力している	民生委員や自治会からは地元行事への参加呼びかけがあり、身近な話題を提供してもらっている。地域で利用しやすく安心できる事業所として、居間やベランダの仕切り等に意見があり、改修につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回市の職員に出席してもらって、実情を把握してもらい、理解をってもらうよう努めている 機会があるときは現状を伝えている	会議等での情報交換のみでなく、必要に応じて電話で相談したり、些細な問題も助言を得る関係ができています。市が作成している「あったか介護連絡ノート」の受け取りや利用者の相談事にも担当者を訪ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	色々な状況の場において、話し合いを行い、拘束しない介護が出来る様にしている。現在は、拘束はないケアを実践していると思っている	事業所が二階であり、夜間のみ階段からの転落を防止する為、柵を設置しているが、日中は自由に過ごしている。利用者の生活リズムを把握し、利用者の行動を見守り拘束しないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じて学び、事業所内では、職員同士お互い注意を払っている。利用者の自宅の様子は、家族との話し合いや、利用者の身体を利用時に観察、会話を通じてもしもの時の発見につとめている		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修において学ぶ機会は少しずつ増えているもののまだまだと思える、現在は必要性がまだない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回の面接時、契約時に納得行く説明をおこなっている、又利用開始後にも不明な点はいつでも訊ねてもらえるように説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、通常の利用の送迎時に疑問な点は意見をいつでも聞く体制である。電話による対応もしている	利用者宅への送迎時に家族から話を聞いたり、連絡ノートの通信欄で意見を聞いたりしている。送迎時間や着替えの頻度・食事の内容等に意見が出て、職員とも話し合い、その都度取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング、毎日の申し送りのミーティングに意見を聞き行うに相応しい内容は代表等に伝え協議し反映していく方針でいる。	日々の介護のなかで入浴方法やレクリエーションの内容等について、職員が提案したやり方は否定せず実践から学ぶ姿勢へとつなげている。管理者は職員と普段から話しやすい関係をつくり、意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社時の雇用契約では、十分に説明を行い、賞与は、査定を適切に行い支払がなされている。労働時間、休みは出来るだけ皆の希望に沿う努力をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を推進している、内部研修は必要に応じて行っている。日々もお互いが高められる努力をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時などに他事業者の方と交流して、意見や、情報交換する機会を、多くとよう推進している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話しする場や、時間を多く設けることで本人の気持ちを聞く、汲むことでしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接時、契約時に納得行く説明をおこなっている、又利用開始後にも不明な点はいつでも訊ねてもらえるように説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービスの内容説明時に他事業のサービスも対等に判断してもらえるよう、情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の気持ちになって常に過ごせるような関係づくりが出来る様常に心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちになって常に過ごせるような関係づくりが出来る様常に心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き、小規模の利用を通して、出来る範囲は支援している。	文化祭や交流センターで作品を展示し、地域のなかでの関係が続くようにしている。宿泊が長期の利用者には、自宅に電話をかける支援をしている。親族が来訪時は、ホールや居室で談話しやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係を把握した上での支援に努めている、座る場所や送迎時の車もかんがえている		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に変わった人であっても、必要に応じ、又必要ではなくても、面会や家族からの電話などで支援も行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人の理念を基に小規模多機能に、ふさわしい態度で実践につなげる努力をしている	利用者に寄り添いその人に合った声かけで、意見をゆっくり聞いている。言葉で意思表示しづらい人には、行動の特徴や仕草を見逃さず、これまでの生活歴や記録を参考にして、家族に聞いて把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやモニタリングを通して行う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやモニタリングを通して行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成、現場では、ケアプランや、個別援助計画を作成し、日々の記録をつけることで次回に活かしている	月1回のミーティングで全員のモニタリングを行い、必要に合わせて見直しをしている。目標は優先順位で番号化し、日々の実践状況で○△×として記録し、家族の希望や看護師の意見も参考にし、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々観察、記録して、読み取ること、申し送りで、共有して活かす努力をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を踏まえ個々を大切にすること、家族を支援することで多機能的に支援している		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人を知ることで支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望するところでいただき、必要な情報は、かかりつけ医や家族に提供している。家族が受診出来ない時等はお手伝いをしている	かかりつけ医の受診は家族が行い、日頃の様子を家族に伝え、受診後は、結果を家族から聞いている。場合により、看護師とかかりつけ医が直接情報交換したり、家族が受診できない場合は、職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師とのかかわりを大切にして、情報を共有して相談しながら行っている。医療面は支持を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員」とは、必要に応じ連絡、相談をおこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	小規模の利用を通して、出来る範囲は支援している。	契約時に事業所の方針は伝えている。重度化した場合、家族の希望を聞き主治医の意見を交えて事業所で話し合い、対応できる範囲のことは行っている。主治医や家族と連携し、その都度話し合いながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の協力の下、状態把握を適切につかむ訓練をし、救急時のマニュアルもある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うこと	消防署や民生委員の協力で、併設のグループホームと共同で、避難訓練を実施している。避難経路・火災報知機の使用法・通報の仕方も再確認している。利用者の参加がなく、夜間想定訓練がされていない。	事業所が二階にあり、災害時の避難には、近隣の協力が不可欠である。近隣住民の協力を呼びかけ、利用者も参加しての夜間想定訓練を実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報を共有して対応している	年長者として敬えるよう、命令的にならないよう言葉がけに注意し、近くで寄り添い話を聞いている。排泄の言葉がけは、他の利用者に気づかせないようにしたり、移乗介助時でも居室のドアは閉めるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々かかわること、個々の特徴をよくとらえて、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	聞き取れることは、聞き取りそれまでの暮らしの中から把握して支援につとめている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後などに、化粧する場を提供、美容室への協力をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを大切にして食事を選びを行っている 準備や片づけは手伝ってもらえるところはお願いしている	利用者に食べたい物を聞きながら、季節の野菜を取り入れ、一緒に献立を立てている。里芋の皮むきや野菜の下ごしらえなど出来ることを手伝ってもらい、職員が調理し利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な情報をとって、必要な食事支援は、まず身体にとって一番大切なこととして支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は個々に応じたケアを必ず行っている		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用、個々の特徴をとらえて支援している	家での排泄の様子を聞き、パッドの種類や使用法、トイレ改修の助言等をしている。便秘時には便通の良い飲み物を準備している。紙オムツがパンツタイプになったり、家でもトイレに行くようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、個人の記録を用いて活用、必要な飲食物の情報をもって予防して		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけにてタイミングを合わせ、日にちにおいては、予定日ではなくても本人の希望で毎日でもしてもらい、汚染時においてもその外でない	毎日入浴・時間帯・1人入浴など希望に合わせてゆったりと入れるようしている。菖蒲湯や柚子湯を楽しみ、個々の薬用入浴剤を使用することもある。入浴を嫌がる人には、様子を見ながらタイミングで声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望でベッドや、ソファを使用して休息をとってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族や病院からの情報をしっかり管理し利用者に提供している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や興味のあることを聞き出し、又日常的に把握している事柄から、一人一人にレクを通じたり、会話などをして楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたい希望をとって行う事や、送迎の行き帰りに寄りたいところへ寄る、又興味のあるところへこちら側から進めて見に行く、立ち寄ることをしている。	利用者の希望と一緒に郵便局やコンビニエンスストアに行っている。日常的に、ショッピングセンターへの買い物と外食に行き、季節に応じ、花火大会・初詣・ボウリング等に出かけている。利用者の希望に合わせて、積極的に外出している。	



NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や、行き帰りに必要な買い物などの時は、支援をおこなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は本人が望むように支援し、又家族に話したいことがありそうな時は、電話で話さないかいうように勧めることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用、玄関には花があるときは飾ること、写真や、飾りで季節感を取り入れ、電気などは刺激にならないようにし温度も適温になるよう注意している	居間に加湿器を設置し、室温に気を配っている。利用者が季節の花を生け生活感を出している。四季に合わせた短歌や小学生と一緒に作った折り紙などの作品を飾っている。サンルームでは、一緒におしゃべりする等ゆったりすごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人たち同士が、一緒にいられるような配慮、一人でいたい人にはその空間を用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は貴人だけのものではないためすべてを好みのものにすることは、していないが、寝具やねまきは個人の好みにして少しのものであれば置くこともかのうである	利用者はパジャマ・枕・電気毛布・目覚まし時計・化粧品等好みに応じて持ち込み、自宅と同じような生活ができるようにしている。利用日には毎回同じ部屋に泊まれるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりとまでは行かないが、できるだけ自分でトイレの場所がわかるようになどしている		